川上の吉野桜

吉野山の桜は千年以上にわたり、詩人や修行僧、旅人たちに賞賛されてきた。 その桜は、905 年頃に完成した和歌集『古今和歌集』に初めて登場した。それ以来、この地域の桜の名声は高まり続けている。吉野山は桜と密接な関係にあるため、19 世紀後半に特定された新しい交配種が、この地域とは何の関係もないにもかかわらず、紛らわしいことに「吉野桜」と名付けられた。

実際、吉野地方で最も一般的な桜は山桜 (ヤマザクラ)である。その山桜が数多く自生しているのは、地元に伝わる伝説がゆえんとされている。671 年、苦しむ人々を救うために、僧侶であり、また神秘家でもあった役行者(634 年頃~701 年頃)が苦しむ人々を救うための神の助けを祈るため、金峯山に登った。すると、釈迦牟尼 (歴史的に実在した仏陀)、弥勒 (未来に現れる仏陀)、千手観音菩薩が次々と現れた。 しかし、それほど穏やかな神々では物足りないと考えた行者は祈りを続けた。 すると突然、崖が鳴動し、雷が鳴り響き、稲妻が空を裂いた。 岩の裂け目から炎に包まれた恐ろしい姿が現れた。それは、三体の力を併せ持つ神の化身である蔵王権現だった。

行者は蔵王権現を敬うため、近くの山桜の木を切り出して神像を彫った。それ以来、桜は蔵

王権現と結び付けられ、多くの桜が山に供えられた。徐々に桜の木は広がり、その名も知られるようになった。現在では、桜は景観を特徴づけるものとなっている。

川上は、毎年春になると、この有名な桜を見るのに混雑を避けられる場所を提供している。あきつの小野公園は、小川が流れ、広々とした苔むした空間があり、お花見ピクニックに最適な場所である。